

柏でも同行二人のお遍路さん

逆井漫歩⑭

利根川と江戸川を結び、東京への船による物資輸送をはかるために明治二十三年に開通したのが利根運河。全長八・五キロ、川底幅十八メートル、水深一・六メートル。オランダから技師を招いて開削した。延べ二百二十万人が従事したが犠牲者も出た。その慰霊と地元との交流のために大正二年に発案されたのが大師堂で、新四国八十八ヶ所運河大師霊場開祖になった。それが平成八年に復活の落慶法要が行われたという。しかし、運河は時代に取り残されて衰退、利根川の水をポンプで汲み上げ、やっと通水している。家庭排水も流れ込む。護持会では環境浄化の願いも込めている。



八十八ヶ所の札所は、会員九十名をこす運河大師護持会で守られている。柏、野田、流山の三市を流れる利根運河沿いに、①大利根②船戸山高野③大青田・下三ヶ尾④東西・深井⑤江戸川と五コースに分け、春と秋に参拝する。にわか遍路が参加したのは①の大利根コースの十四札所で、途中で運河の水門がある水堰橋を渡って野田市へ入り、歩き続けた。



お大師様の日の二十一日、船戸の真言宗のぼたん寺・医王寺に九時集合、いわれた通りに水筒、弁当を持って出かけた。利根運河札所八十八ヶ所巡りへの参加である。

同行二人の袈裟袋を下げ、白装束の四十余人が、お茶をふるまわれ、本堂で住職と般若心経を誦読。まず境内にある七十一番札所の祠に参拝して、いよいよ出発。鈴を鳴らす先導について行く。にわかお遍路さんは神妙にしんがりである。立派な堂宇があるわけではない。弘法大師の尊像のある、無人の祠ばかりで、そここの路傍の植え込みの中、庭すみ、門の脇、屋敷の中、清掃工場の煙突が見下ろす畑の中に点在している。そこで般若心経を唱和する。素朴な信仰である。